

科目名		臨床薬理学		分野・必選別・単位数	共通科目	選択	2単位
担当教員		◎教授 青山晃治(医・薬理)					
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義
授業の概要		臨床的に使用頻度が高い治療薬の実践的な知識を中心に座学で学ぶ。					
授業の到達目標		看護に必要な治療薬の基本的な考え方を確実に習得する。					
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	青山 晃治	教授	薬物動態学1 吸収、代謝、分布、排泄概論について概説できる。			
	2	青山 晃治	教授	薬物動態学2 血漿濃度に及ぼす因子について概説できる。			
	3	青山 晃治	教授	薬物動態学3 静脈内点滴投与の理論について概説できる。			
	4	青山 晃治	教授	薬力学1 受容体について概説できる。			
	5	青山 晃治	教授	薬力学2 薬の強さの指標について概説できる。			
	6	青山 晃治	教授	薬力学3 頻用薬の作用機序について概説できる。			
	7	青山 晃治	教授	循環系に作用する薬1 心臓に作用する薬について概説できる。			
	8	青山 晃治	教授	循環系に作用する薬2 血管に作用する薬について概説できる。			
	9	青山 晃治	教授	抗凝固薬 ヘパリンとワルファリンについて概説できる。			
	10	青山 晃治	教授	中枢神経系作用薬 鎮静催眠薬について概説できる。			
	11	青山 晃治	教授	感染症治療薬1 総論			
	12	青山 晃治	教授	感染症治療薬2 βラクタム系について概説できる。			
	13	青山 晃治	教授	症例研究1 症例を提示して投与計画を検討する。			
	14	青山 晃治	教授	症例研究2 症例を提示して投与計画を検討する。			
	15	青山 晃治	教授	症例研究3 症例を提示して投与計画を検討する。			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書		薬理学(系統看護学講座専門基礎分野)、医学書院					
参考書		New薬理学、南江堂					
成績評価の方法および基準		口頭試問100%によって評価する。					
その他履修上の注意事項		試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。					